

年 組 名前:

女性消防士の増加を目指し
PR活動に取り組む

顔

小沢 夕紀さん

総務省消防庁の「女性活躍推進モデル事業」で、女性消防士の志願者増を目指し、PR動画やガイドブックなどの制作に携わっている。2002年に県内初の女性消防士になり、4月で20年目を迎える。「消防の仕事は男性のイメージが強いが、女性も活躍できる。1人でも多くの人に興味を持ってほしい」活動で大切にしているのは、就職を目指す学生らに寄り添う気持ち。自身の経験だけでなく、後輩の女性消防士からも積極的に体験談や意見を聞き、動画や冊子に反映させている。「就職前の不安な気持ちの解消につながれば、動画の再生数が1カ月で千回を超えた時や、ガイドブックを見た人から問い合わせがあった時がうれしい」



おさわ・ゆきさん 甲府地区消防本部総務課主任。3児の母。甲府市大里町。41歳。

火災などの現場に向く消防士の経験を経て、2年前からは総務課で物品購入に関する業務を担当。「仕事の全てが住民の生命、身体、財産を守ることにつながる」とやりがい語る。現在、甲府地区消防本部に在籍する女性消防士は8人。「後輩が気軽に何でも相談できる母親のような存在でありたい」と笑顔を見せる。

29歳で結婚し、出産、育児を経験。当初は仕事と家庭の両立に不安もあったが、「子育て支援制度や同僚らの支えのおかげで公私ともに充実している」。母となり、「妊婦や乳幼児の立場で、避難の仕方や分かりやすい防火活動を考えるようになり、業務の幅が広がった」。

新型コロナウイルスの感染が収束すれば「学生たちに会って、仕事の魅力を直接PRしたい」と意欲をみせる。消防の仕事は体を動かすことや地域貢献、人助けに興味がある人に向いている。多くの人に就職の選択肢の一つとして考えてほしい」

〈安本渉〉

防火に妊婦や乳幼児目線

(2021年3月8日付 山梨日日新聞5面)

問1

小沢さんは「A年」に県内初の女性消防士になり「B月」で「C年目」を迎えます。現在、甲府地区消防本部には「D人」の女性消防士が在籍しています。A～Dに入る数字は何ですか。

A「 年」 B「 月」 C「 年目」 D「 人」

問2

小沢さんは結婚、出産、育児を経験し、業務の幅がどのように広がったか、書いてください。

.....

.....

問3

仕事に就いて活躍する女性が増えていますが、採用の際や職場での待遇面で、女性への差別や偏見が今も残っているとの指摘もあります。次の中で女性への差別・偏見だと思うものに○を付けてください。

- 「 」 優秀であれば男女関係なく採用する
- 「 」 女性がたくさんいる会議は時間がかかる
- 「 」 女性の給料は安いので会社のためになる
- 「 」 男女の比率が縮まり社内の多様性が増す
- 「 」 来客にお茶やコーヒーを出すのは女性の役目